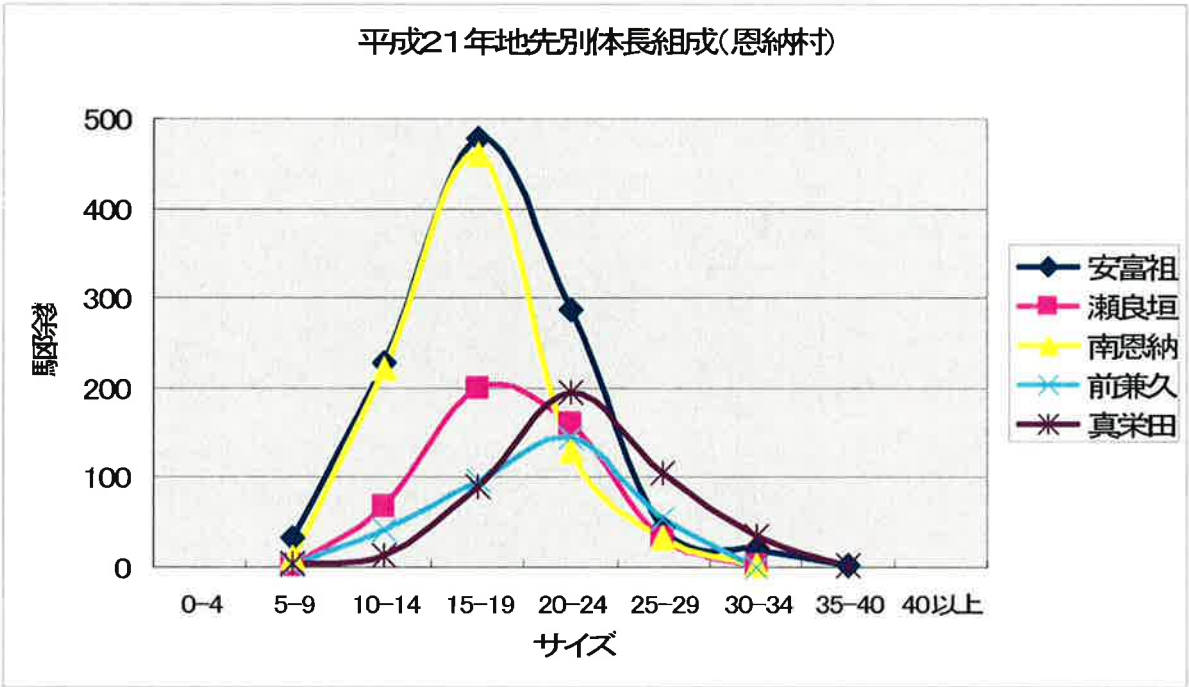
5 オニヒトデの体長組成

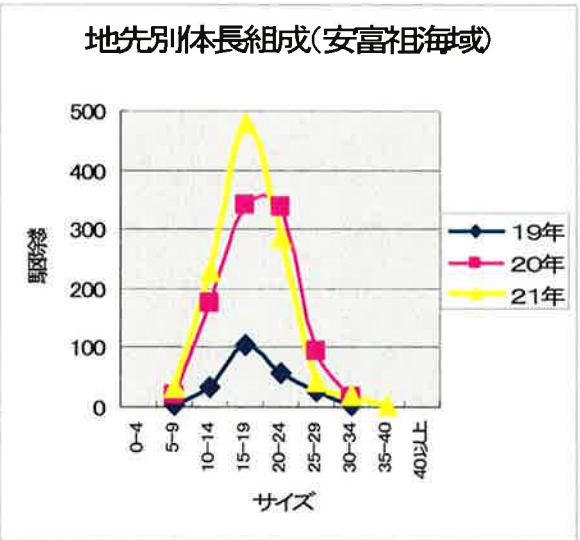
体長組成は、オニヒトデのトゲの部分を除いた、腕の先から反対側の腕の先までで一番大きい直径（長径と言う）を測ります。これを、5cm単位でまとめたものです。沖縄本島地区でのオニヒトデの産卵は、7月から数回ある、また、オニヒトデの直径は、産卵後1年目で約 10 cm、2年目で約 20cm、3年目で約 30 cmになると言われています。体長組成を見ることにより、オニヒトデの加入状況が分かります。

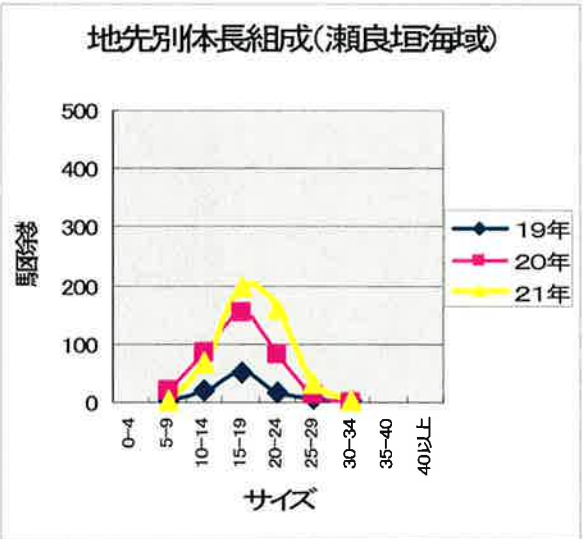
例えば、平成21年に駆除したオニヒトデの地先別の体長組成を見ると、北側の安富祖～南恩納地先で小さい個体が多く、南側の前兼久・真栄田地先では少ないことが分かります。それによると、平成19 年と 20 年に生まれたオニヒトデ幼生は、主に恩納村北部に着底したことになります。



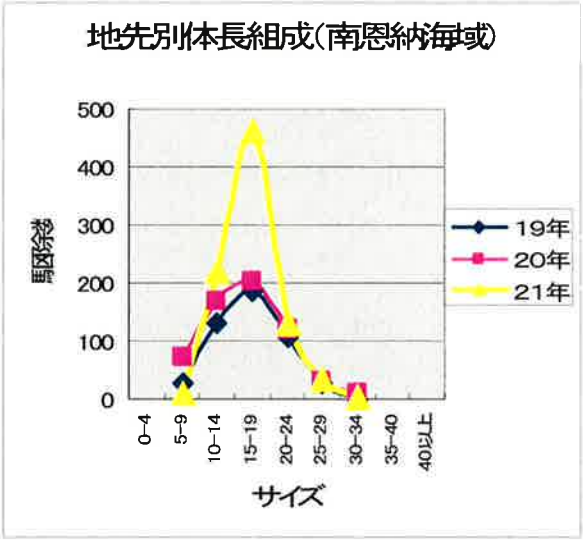
6 体長組成の経年変化

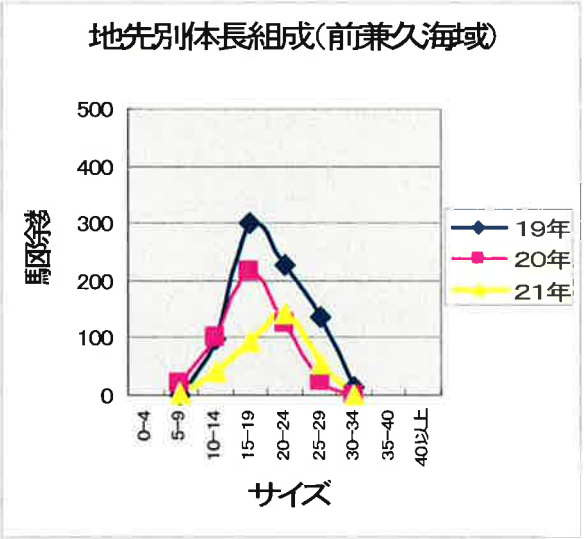
体長組成の経年変化を見ると、オニヒトデの動向が分かります。北側の安富祖海域では、去年から個体数が増加傾向にあります。また、規模は小さいですが、瀬良垣海域も増加傾向にあります。



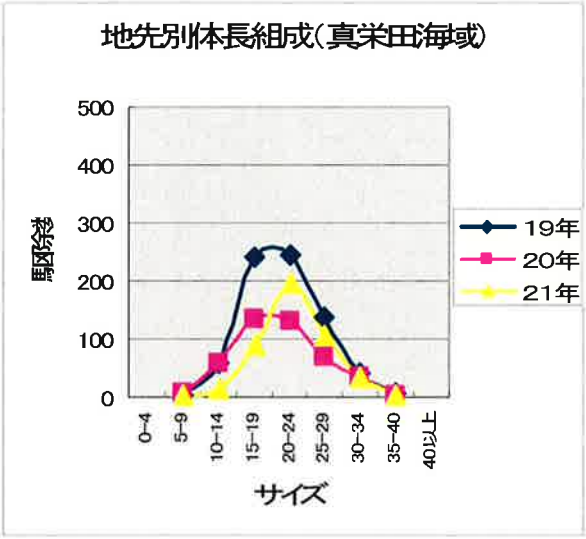


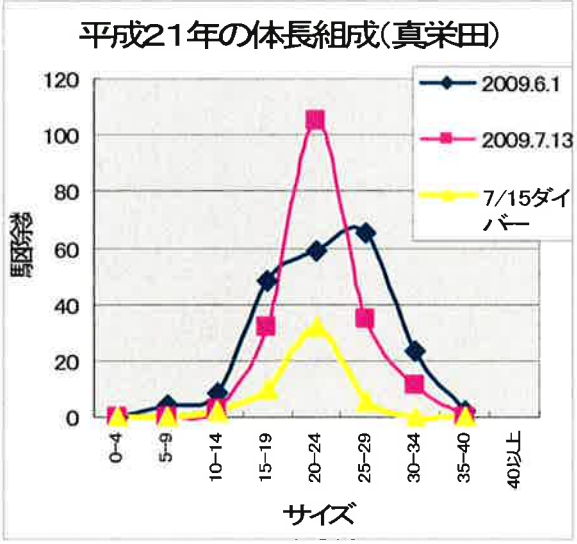
恩納村の中央部に位置する南恩納海域は、小さい個体が多い海域で、今年は更に小さい個体が増加しています。恩納村南部の前兼久・真栄田海域では、体長 15 cm以下の小型個体が減少しており、今後の更なる減少が期待できます。





真栄田海域の平成21年の体長組成を見ると、駆除回数が増すにつれ小型化しています。また、ダイバーによる深場の駆除によると春上がり集団は、ほぼ駆除したと思われます。





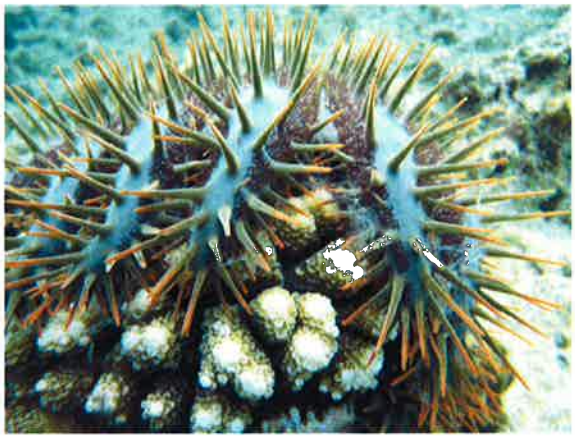
7 オニヒトデの状況と今後の駆除計画

近年では、各海域でオニヒトデが多く見られる場所は限られており、そこを集中的に駆除していました。ところが、今年は、安富祖海域ではより北側の名嘉真地先で多く見られ、瀬良垣地先ではギナン地先、南恩納海域では谷茶グチ～ウーグチの間、前兼久海域では山田ポイント、真栄田地先では美留グチ付近など、近年では密度が小さかった海域でも大型のオニヒトデが見られるようになっています。漁業者によると小さなサンゴが多くなっている場所では、オニヒトデも多いとのことでした。

後期は、第一に北側海域を集中的に駆除し、大発生に結びつかない密度まで取り除きます。次に、小さな個体をより多く取り除きます。

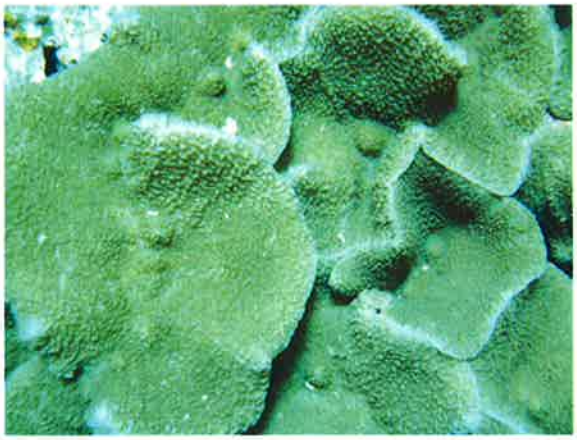
8 オニヒトデ駆除の写真

平成21年7月15日、真栄田（長浜グチ北斜面）
放精があった直後のオニヒトデ、トゲに元気がありません。



平成21年7月15日、真栄田（長浜グチ北斜面）
普通のオニヒトデ、トゲが鋭い。

平成 21 年 6 月 3 日、南恩納（万座毛地先）



平成 21 年 7 月 13 日、真栄田

平成 21 年 7 月 13 日、前兼久（山田ポイント）
今年は、この場所もオニヒトデが増えました。

平成 21 年 7 月 13 日、前兼久（山田ポイント横）